

科目名	小型マイコン演習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	高橋 政博		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻4年・情報システム専攻科電子システムエンジニア専攻アドバンスコース3年						
授業概要	制御対象部品と小型マイコンを接続し、部品の自律動作の制御を行う。						
	iCDタスクコード		DV07.2.1、DV07.3.1、DV07.7.1				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				ラズベリー・パイを使用した電子工作ができる	
		○				各種電子機器と制御するプログラムの作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	タトラエディット 『ゼロからよくわかる! ラズベリー・パイで電子工作入門ガイド』 技術評論社、2020						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	ラズベリー・パイの基本を振り返る(LEDを点灯させる)				ラズベリー・パイの動作環境を整理しておく	
	4-6	モーターとつないで扇風機を作る(モータードライバのプログラム)				電子部品を準備しておく	
	7-9	モーターとつないで扇風機を作る(スイッチでON/OFF切替え、成果発表)					
	10-12	温湿度計を作る(温湿度計について詳しく知る)					
	13-15	温湿度計を作る(温湿度計のプログラム、成果発表)					
	16-18	定点カメラを作る(ラズベリー・パイ専用カメラについて詳しく知る)					
	19-21	定点カメラを作る(定点カメラの組み立て)					
	22-24	定点カメラを作る(定点カメラのプログラム、成果発表)					
	25-27	自動更新のお天気ボードを作る(LCDを組み付ける)				LCDの動作原理について復習しておく	
	28-30	自動更新のお天気ボードを作る(LCDへの文字表示)					
	31-33	自動更新のお天気ボードを作る(天気取得プログラム、成果発表)					
	34-36	スマホで操作するロボットを作る(ロボットを組み立てる)					
	37-39	スマホで操作するロボットを作る(ラズベリー・パイとスマホを接続)					
	40-42	スマホで操作するロボットを作る(操作プログラム、成果発表)					
	43-45	学習まとめ(最終成果発表)					
評価方法	(1)各演習の成果物を確認する。(2)開発演習の成果発表を実施する。(3)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物		◎				60%
	発表		○				20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ドローン制御演習						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	元田 真史		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科電子システム工学専攻4年・情報システム専攻科電子システムエンジニア専攻アドバンスコース3年						
授業概要	様々な産業で応用されるドローンの制御方法を学ぶ。操作端末からの手動制御およびプログラムによる自動制御を体験する。また、ドローンを自作して、飛行データを取得するシステムを作成することで、ドローンを用いたIoTシステムを構築できる技術を習得する。 iCDタスクコード： DV07.2.1、DV07.3.1						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				ドローンの飛行原理の基礎を説明できる。	
		○	○			操作端末を利用して、手動でドローンを飛行させることができる。	
		○				自作ドローンを組み立てることができる。	
		○				ドローンを利用したIoTシステムを提案することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ドローンと飛行制御の基礎知識					
	2-3	小型ドローンの飛行制御(手動)					
	4-5	小型ドローンの飛行制御(SDK)					
	6-7	ドローンの飛行制御OSS				飛行制御のOSSについてレポートにまとめること(1時間)	
	8-9	自作ドローンの作成(ドローン作成キット)					
	10	自作ドローンの飛行制御(手動)					
	11-12	飛行制御プログラムの解析					
	13-14	飛行制御プログラムの修正					
	15-16	自作ドローンのハードウェア修正(フライトデータの送受信)					
	17	基地局の構築(フライトデータの受信環境構築)					
	18-19	フライトデータの可視化					
	20	ドローンによるIoTシステムの検討					
	21-28	ドローンによるIoTシステムの作成				成果発表の資料を作成すること(2時間)	
	29	成果発表				これまでの授業内容を復習すること(1時間)	
	30	総復習					
評価方法	(1)プログラム作成演習を実施する。(2)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プログラム課題		◎				80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	画像認識技術Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	元田 真史		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻4年・情報システム専攻科電子システムエンジニア専攻アドバンスコース3年						
授業概要	画像処理分野の開発、設計に必要な知識をPythonによる実装を通して修得する。画像処理エンジニア検定ベーシックの出題範囲に準拠した内容を学習し、当該検定への合格を目指す。 iCDタスクコード : DV07.3.1						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				動画画像処理や画像符号化などの画像処理に関する手法を説明することができる。	
		○				画像処理システムに使われるハードウェアや規格を説明できる。	
		○				画像信号処理の理論をPythonにより実装することができる。	
		○				パターン認識・計測のアルゴリズムをPythonにより実装することができる。	
テキスト・教材 参考図書	『画像処理エンジニア検定エキスパート・ベーシック公式問題集 [改訂第四版]』 画像情報教育振興協会 2021						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	デジタル画像の基礎知識					
	2-3	画像の濃淡変換					
	4-5	画像のフィルタリング処理					
	6-7	2値画像処理・領域分割処理					
	8-9	動画画像処理					
	10-11	画像間のマッチング					
	12-13	図形やパターンの検出と認識					
	14-15	ニューラルネットと深層学習					
	16-17	画像と空間の幾何学的関係と3次元復元				授業内で提示したプログラム課題を作成すること(1時間)	
	18-19	システムと規格					
	20-21	関連知識(知覚、知的財産権、情報セキュリティ)					
	22-23	総復習(検定試験対策)					
	24-26	模擬試験				間違えた問題を解きなおすこと(1時間)	
	27-29	周波数領域での画像処理					
30	総復習(期末試験対策)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)検定試験を受験する。(3)プログラム作成演習を実施する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				30%
	検定試験		◎				20%
	プログラム課題		◎				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	卒業制作B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	90時間	担当者	山下 文夫		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻4年・情報システム専攻科電子システムエンジニア専攻アドバンスコース3年						
授業概要	チームによる組込みシステム開発を行う。設計、実装、試験などの工程を体験する。開発を進める上で発生する問題に対処する経験を積む。全工程終了時に開発全体のプレゼンテーションを実施し、作業内容や問題点と解決策を振り返る。						
	iCDタスクコード	DV07.3.1、DV07.7.1					
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				チームによるシステム開発を行うことができる	
		○				設計、実装、試験の各作業工程の実施目的と作業内容を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	開発スケジュール作成、WBS作成					
	4-6	基本設計					
	7-9	詳細設計					
	10-12	詳細設計					
	13-15	実装1					
	16-18	実装2					
	19-21	実装3					
	22-24	実装4					
	25-27	単体試験					
	28-30	結合試験					
	31-33	総合試験					
	34-36	総合試験、開発まとめ					
	37-39	開発まとめ、チーム成果発表					
	40-42	個人振り返り資料作成					
43-45	個人振り返り発表						
評価方法	(1)設計資料を作成する。(2)開発作業の成果を発表する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物		◎				50%
	発表		◎				30%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	先端IT技術演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	志水 徹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 高度ITシステム専攻/高度ネットワーク・セキュリティ専攻/電子システム工学専攻 4年・ 情報システム専攻科 システムエンジニア専攻アドバンスコース/ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース/電子システムエンジニア専攻アドバンスコース 3年						
授業概要	最新のICT技術の事例としてブロックチェーン技術の概要知識、およびスマートコントラクトの入門的な開発手法について習得を目指す。						
	iCDタスクコード : DV04.6.1						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		ブロックチェーン技術の概要を説明することができる。	
		○		○		スマートコントラクトの入門的な開発手法を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	麻生情報ビジネス専門学校 ブロックチェーン概論/ブロックチェーン開発入門						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	ブロックチェーンの概要・ブロックチェーンと仮想通貨					
	3-4	ブロックチェーンの構成要素・ブロックチェーンを支える暗号技術				ここまでの課題を提出すること	
	5-8	P2P ネットワーク・マイニングとコンセンサスアルゴリズム				ここまでの課題を提出すること	
	9-12	ブロックチェーンの課題・スマートコントラクトの概要				ここまでの課題を提出すること	
	13-14	スマートコントラクト・Ethereum				ここまでの課題を提出すること	
	15-30	DApps(分散型アプリケーション)・コントラクトの作成				ここまでの課題を提出すること	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを複数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎		○		50%
	課題・レポート		◎		○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	PCを利用する。						

科目名	先端IT技術演習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	高橋 政博		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 高度ITシステム専攻/高度ネットワーク・セキュリティ専攻/電子システム工学専攻 4年・ 情報システム専攻科 システムエンジニア専攻アドバンスコース/ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース 3年						
授業概要	AI/IoTを中心に、最新のICT技術の調査を行い、どのような事例で利用されているか資料にまとめ発表し共有する。 また、調査した技術を用いたシステムのプロトタイプを構築して、普段の生活の中の課題解決を目指す。						
	iCDタスクコード	SP05.6.1					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				最新のICT技術を自ら調べることができる	
		○				調査内容のプレゼンテーションを行い、他者に伝えることができる	
		○				調査した技術を用いて、課題解決に向けたシステムが構築できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	技術調査1					
	3-4	調査資料作成1				可能であれば最新技術が活用されている現場を見学する	
	5-6	調査結果発表1					
	7-8	技術調査2					
	9-10	調査資料作成2				可能であれば最新技術が活用されている現場を見学する	
	11-12	調査結果発表2					
	13-14	技術調査3					
	15-16	調査資料作成3				可能であれば最新技術が活用されている現場を見学する	
	17-18	調査結果発表3					
	19-20	実装技術選定				解決したい日常の課題を検討しておく	
	21-22	プロトタイプ実装1				新規に必要なパーツなどあれば購入しておく。	
	23-24	プロトタイプ実装2					
	25-26	プロトタイプ実装3					
	27-28	プロトタイプ動作検証					
29-30	プロトタイプ振り返り						
評価方法	(1)技術内容を発表資料に整理する。(2)技術内容を発表する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物		◎				50%
	発表		○				30%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスマナー						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳島 欽子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年						
授業概要	ビジネスシーンに必要な名刺交換、電話応対などの基本的なマナーだけでなく、冠婚葬祭や食事の仕方などのその場に応じたマナーを学ぶ。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		社会人として相応しいビジネスマナーを理解することができる。	
		○		○		社会人として必要な電話応対ができる。	
		○		○		冠婚葬祭のマナー、日常生活でのマナーを理解し実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	入社1年目ビジネスマナーの教科書(プレジデント社・Kinoppy)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	訪問のマナー ～好印象を与える自己紹介の仕方				自己紹介ができるよう準備をすること	
	2	～好印象を与える自己紹介の仕方					
	3	基本マナー ～テーブルマナー					
	4	電話応対 ～報連相・電話応対の基本・電話の受け方の流れ・かけ方の流れ					
	5	～電話の受け方演習、取次ぎ方演習					
	6	～電話のかけ方の流れ・かけ方演習					
	7	～電話応対テスト				電話応対の流れを確認しておくこと	
	8	～電話応対テスト					
	9	冠婚葬祭 ～慶事のマナー・贈り物のマナー					
	10	～祝儀不祝儀袋の決まりごと					
	11	～弔事のマナー					
	12	～その他のマナー					
	13	基本マナー ～名刺交換のマナー・席次					
	14	～課題にて復習				全体の復習をしておくこと	
15	～組織と人間関係・総復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業中に実技試験を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎		○		55%
	確認テスト	○	○		◎		25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	インターネット基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松嶋 貴志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年						
授業概要	一般社団法人 全国専門学校情報教育協会主催のインターネット ベーシック ユーザー テスト (iBut) の出題範囲に準拠し、社会人として必要なインターネット社会における知識を統括的に学び、iBut試験合格を目指す。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				iBut試験で合格点を取得する。	
テキスト・教材 参考図書	「iBut」インターネットベーシックユーザーテスト テキスト 一般社団法人 全国専門学校情報教育協会						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	インターネットの基礎1					
	2	インターネットの基礎2			要点をまとめておくこと		
	3	インターネットでの被害1					
	4	インターネットでの被害2			要点をまとめておくこと		
	5	インターネット関連の法規1					
	6	インターネット関連の法規2			要点をまとめておくこと		
	7	インターネット利用者のモラル1					
	8	インターネット利用者のモラル2			要点をまとめておくこと		
	9	インターネットのしくみ1					
	10	インターネットのしくみ2			要点をまとめておくこと		
	11	コンピュータウイルス1					
	12	コンピュータウイルス2			要点をまとめておくこと		
	13	セキュリティ1					
	14	セキュリティ2			要点をまとめておくこと		
15	演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、検定試験を定期試験とみなす。(2)課題またはレポートを数回実施する。 (3)受講状況进行评估する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				50%
	課題・レポート	◎	○				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。PCを利用する。						

科目名	組込み技術研究						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高橋 政博		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 電子システム工学専攻4年・情報システム専攻科電子システムエンジニア専攻アドバンスコース3年						
授業概要	組込みシステム業界の新技术を取り上げ、詳細を調査して発表資料にまとめる。まとめた後はクラス内に発表を行うことで技術内容の情報交換を行い幅広い知識を身に付ける。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				最新の組込みシステムの技術を自ら調べることができる	
		○				調査内容のプレゼンテーションを行い、他者に伝えることができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	テーマ選定1 (第1クール)					
	2	技術調査					
	3	技術調査(続き)					
	4	発表資料化					
	5	発表1					
	6	テーマ選定2 (第2クール)					
	7	技術調査					
	8	技術調査(続き)					
	9	発表資料化					
	10	発表2					
	11	テーマ選定3 (第3クール)					
	12	技術調査					
	13	技術調査(続き)					
	14	発表資料化					
15	発表3						
評価方法	(1)技術内容を発表資料に整理する。(2)技術内容を発表する。(3)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物		◎				50%
	発表		○				30%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験対策秋対策B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	川野 啓祐		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~12	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	13~25	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	情報処理試験対策春対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	川野 啓祐・姫野 マリ		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年 情報システム科アドバンスコース1,2年・情報システム専攻科アドバンスコース1,2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	7-12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							